

# ART SUPPORT CENTER

南関東・甲信

障害者アートサポートセンター

2025年度事業報告書

厚生労働省 令和7年度障害者芸術文化活動普及支援事業



# ART SUPPORT CENTER

南関東・甲信

障害者アートサポートセンター  
2025年度事業報告書

厚生労働省 令和7年度障害者芸術文化活動普及支援事業



# Contents

はじめに	03
障害者芸術文化活動普及支援事業 南関東・甲信ブロック	04
南関東・甲信ブロック支援センター	06
南関東・甲信ブロック広域センター 実施団体	08

<b>Part 1 連携企画</b>	<b>09</b>
1. 山梨県の展覧会「雑踏展」への運営協力と交流	10
2. ギャラリーツアーとトークイベントを通じた ネットワークづくり	11
3. 他地域の支援センターを訪れる、交流企画	12
番外編 東海・北陸ブロックとの連携による パフォーミングアーツ分野の発表機会の創出	13
[Column] 展覧会の出展や事業見学などの交流が生まれました	14

<b>Part 2 研修</b>	<b>15</b>
1. 支援センターの活動事例から舞台芸術分野について考える 講師：石平裕一（ART(s) さいほく）/ 村上あすか（東京アートサポートセンター Rights (ライツ)）	16
2. 障害のある人と一緒に作る、一緒に楽しむ 講師：大石将弘（俳優）	17
3. 自治体が主催する公募展を見学する	18
4. 市民協働について学ぶ 講師：森真理子（厚生労働省障害者文化芸術計画推進官）	19
[Column] 広域センターがゆく I	20

<b>Part 3 意見交換会</b>	<b>21</b>
1. 注力する事業や事業運営の工夫について話し合いました！	22
2. 舞台芸術分野について意見を交わしました！	25
[Column] 広域センターがゆく II	26

<b>Part 4 事業評価</b>	<b>27</b>
評価体制／評価方法	28
ロジックモデルの目標と達成度	29
評価チームによるコメント 長津結一郎／藤原顕太	30

おわりに	32
南関東・甲信ブロック 支援センター一覧	33

## はじめに

南関東・甲信ブロックの広域センターを受託して5年目を迎えました。それぞれの障害者芸術文化活動支援センター（以下、支援センター）は、地域性や運営団体の専門性、予算や人員体制などが異なる状況ではありますが、各地の特色に合わせて活動しています。

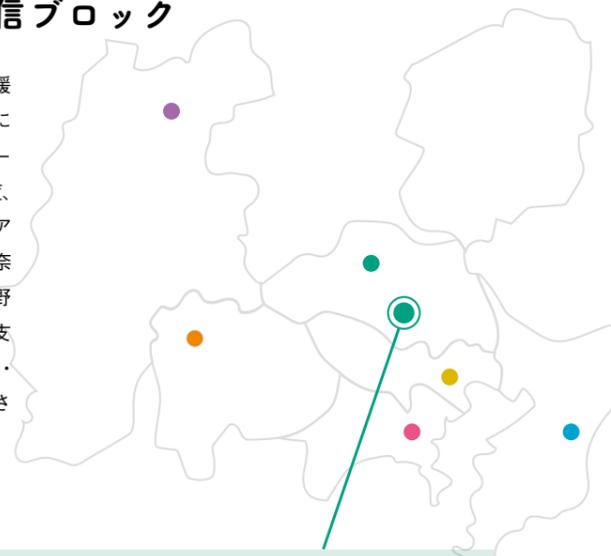
今年度も、各支援センターがもつ強みや知見を共有し合い、活動を学び合う機会として、ブロック会議、研修、各都県における事例報告・意見交換会などを実施しました。事業を通して、各々の課題についても相互に助け合いながら、「みんなで考える」ことができるネットワークを目指し、活動しています。

また、昨年度の事業評価の結果から自治体の担当者同士の交流を促進できるよう、今年度は対面での会議や研修を増やし、自治体が主催する展覧会の見学も実施しました。見学・交流企画も継続することで、支援センターだけでなく自治体の担当者も他都県の取り組みから学び、交流を深める契機となりました。新たに、支援センターからの提案により、見学だけでなく、事業運営への協力から運営の手法を学ぶ連携企画も実施しました。さらに、2024年度に行った千葉県でのトークイベントのつながりを活かし、今年度も同県の展覧会に合わせてギャラリーツアーやトークイベントなどで交流を図りました。

本書では今年度の中心的な活動を1冊にまとめています。各地で行われている障害のある人の芸術文化活動の発展に寄与し、本事業の支援センターだけでなく、この分野に関わる方々の取り組みの一助になれば幸いです。

## 障害者芸術文化活動普及支援事業 南関東・甲信ブロック

障害者芸術文化活動普及支援事業では、全国を7ブロックに分け、それぞれに広域センターを設置しています。2025年度、南関東・甲信ブロックのエリアには、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、山梨県、長野県があり、1都5県に7つの支援センター(埼玉県には基幹型・特色型の2センター)が設置されています。



### NOTE

南関東・甲信障害者アートサポートセンターの取り組みは、2017年度から実施されている「障害者芸術文化活動普及支援事業」の一環です。当事業は、障害のある人が芸術文化を享受し、多様な芸術文化活動を行えるようにするための事業です。地域における支援体制を全国に展開し、障害のある人の芸術文化活動の振興を図るとともに、自立と社会参加を促進します。都道府県ごとの「障害者芸術文化活動支援センター(支援センター)」、ブロックごとの「障害者芸術文化活動広域支援センター(広域センター)」、全国の「連携事務局」といった支援拠点を設置しています。全国に障害者の芸術文化活動支援の仕組みを整えると同時に支援センター、広域センター、連携事務局のネットワークを構築し、県境を超えて広域でも連携しつつ、地域での振興を図りながら全国規模で推進しています。

南関東・甲信ブロック広域センター  
南関東・甲信障害者アートサポートセンター

- 埼玉県支援センター(基幹型)  
埼玉県障害者芸術文化活動支援センター  
アートセンター集
- 埼玉県支援センター(特色型)  
ART(s) さいほく
- 千葉県支援センター  
千葉県障害者芸術文化活動支援センター  
うみのもり
- 東京都支援センター  
東京アートサポートセンター  
Rights(ライツ)
- 神奈川県支援センター  
神奈川県障害者芸術文化活動支援センター
- 山梨県支援センター  
YAN山梨アール・ブリュット  
ネットワークセンター
- 長野県支援センター  
ザワメキサポートセンター  
(長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

## 2025年度の事業内容とスケジュール

今年度は、対面での研修や会議、当ブロックの各支援センターとの連携企画を中心に取り組みました。

### 事業内容

- ① 支援センターへのヒアリング
- ② ブロック会議
- ③ 各都県における事例報告・意見交換会
- ④ 研修
- ⑤ 連携企画
- ⑥ 見学・交流企画
- ⑦ 情報収集・発信
- ⑧ 事業評価への取り組み
- ⑨ 報告書の作成

## 2025年度の目標

昨年度の事業評価に加えて、各支援センターにヒアリングした課題と、ニッセイ基礎研究所作成の『全国の障害者による文化芸術活動の実態把握に資する基礎調査報告書(令和2年度・令和3年度)』を参考に、下記の通り目標を設定しました。

- 1 支援センターの支援力の向上**  
主体的に対話し、学び合うことで各支援センターの支援力向上を目指す。
- 2 ブロック内連携と相互フォロー体制の構築**  
連携を促進し、相互フォローしながら「みんなで考える」体制を構築する。
- 3 鑑賞・発表機会の拡充**  
展覧会やイベントでの連携や、各支援センターとの意見交換を通じて鑑賞や発表の場について考える。
- 4 支援センター認知度の向上**  
本事業を親しみやすく紹介し、支援センターの魅力を発信する。
- 5 基本計画未策定の自治体に向けた働きかけ**  
自治体と協働し、地域や分野を横断した事業の推進を目指す。

専門外の分野を強化したい(美術、福祉、舞台芸術)

市民協働とは……

障害のある人との場づくりについて考える

十分な広報活動を行っていない

都県内全域でネットワークを拡充したい

### スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2月	3月						
① 支援センターへのヒアリング	⑧ 評価チーム会議	② ブロック会議	⑧ 評価チーム会議	⑦ パンフレット増刷	② ③ (自治体による事例報告・意見交換会) ブロック会議	⑧ 評価チーム会議	④ 研修	④ 研修	④ 研修	⑤ 連携企画@山梨	② ブロック会議	⑧ ヒアリング	⑤ 連携企画@千葉	⑧ 事業評価アンケート	② ブロック会議	⑦ ⑨ 事業報告書配布
⑦ ホームページ・SNSなどでの情報収集・発信																
自治体の基本計画への働きかけ																
⑥ 見学・交流企画																

Topics 今年度は対面での研修を行いました! →p. 18,19

Topics 今年も千葉県でのイベントを実施 →p. 11

## ■ 南関東・甲信ブロック支援センター

南関東・甲信ブロックで活動する、6つの支援センターを紹介します。  
 埼玉県支援センター（基幹型）は p.8 に掲載。  
 またそれぞれのお問い合わせ先は p.33 をご参照ください。

### 埼玉県支援センター（特色型）

#### ART(s)さいほく

2019年に埼玉県で二つ目の支援センターとして活動をスタートし、県北部・西部地域の障害のある人たちの芸術や表現活動のサポートを行っています。「地域とつながる」ことをテーマの一つとして、まちの文化財を活用した作品展などを地域の人や団体と協働しながら実施。また相談支援事業所との連携により、在宅で創作活動を行う人たちの作品の発掘やサポートにも力を入れています。作者へのいねいなサポートの充実や地域との連携を目指します。  
 まちや地域の事業所の職員も協働して展示会を企画するなど、地元の地域を中心に活動しています。市町村ならではの地元の情報から作家につながることもあり、2025年度も東松山市総合会館での展示会「アートセッションズ in さいほく 2025」を実施。さらに音楽分野のライブイベントもアートセンター集や広域センターと連携して取り組みました。



### 千葉県支援センター

#### 千葉県障害者芸術文化活動支援センター うみのもり

千葉県を中心に「人材育成講座の開催」「相談受付」「ネットワークの構築」「発表等の機会の創出」「情報収集・発信」に取り組んでいます。文化芸術活動を支援する人の技術習得の場の確保、また表現者の体験を提案し、展示や発表の機会を設けています。「うみのもり」という名称には、芸術文化を通して多様な生きものを養い、海そのものの水質をも浄化する「藻場」のような場所でありたいという想いが込められています。  
 2025年度は長崎県で開催された第25回全国障害者芸術・文化祭「ながさきピース文化祭2025」のサテライト開催事業として、新たに演劇分野にも取り組み、バリアフリー演劇鑑賞会とワークショップを開催しました。



撮影：竹村浩輝

### 東京都支援センター

#### 東京アートサポートセンター Rights（ライツ）

障害のある方々が生み出す美術・身体表現・音楽などの創作やそれを取り巻く環境の充実を目指して、さまざまな視点から障害のある方の表現について考え、その表現を通じて創作環境の理解や知識の拡充につなげるプロジェクトを展開しています。専門家との連携やネットワークを活かした相談支援に取り組みとともに、障害者と地域の人たちがつながる機会をつくるため、多分野で活躍する地域の人々と一緒に活動しています。  
 2025年度は、音楽分野の取り組みとして、障害のある人もない人もみんなで一緒にクラシック音楽を楽しむミニコンサートを実施しました。また、障害当事者や支援者によるトークイベントでは、表現することの意義や社会とのつながりについて語り合いました。



### 神奈川県支援センター

#### 神奈川県障害者芸術文化活動支援センター

2020年度に開設。障害のある人の芸術文化活動に関する相談対応や、活動を支えるネットワークを構築する「つなぐ」、芸術家によるワークショップや展示会などの実施を通して、体験や発表の機会を創出する「つくる」、障害のある人の芸術文化活動を支援するコーディネーターを育成する「支える」の3つを柱に活動を展開しています。障害のある人が身近な地域で芸術文化に触れられるよう、障害福祉・芸術文化のネットワーク構築を目指しています。  
 2025年度は県内6カ所の福祉施設でアーティストによるワークショップを実施。施設のニーズに合わせてさまざまなジャンルのワークショップを行い、それぞれの表現を見つける時間をつくりました。



撮影：金子愛帆

### 山梨県支援センター

#### YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

2016年度より活動し、障害のある人の芸術活動に関する相談を受け付け、また県の地理的条件を超えた連携、施設間やアート活動を行う支援者、支援団体との交流を通して障害者の芸術活動支援を進めています。特徴は寄せられた相談をもとに事業所などを訪問し、助言や情報提供、アート体験ワークショップを行うアートカフェミーティングを実施していること。相談者のニーズに寄り添うことで一件一件との関わりも深まりネットワークの構築にもつながっています。昨年度に続き2025年度も甲府駅近くのギャラリーや店舗など6カ所で「甲府の街とアートを巡る『雑踏展』」を開催し、県内5名、県外5名の計10名の作家の出展がありました。



撮影：本杉郁雲

### 長野県支援センター

#### ザワメキサポートセンター（長野県障がい者芸術文化活動支援センター）

障害のある人が創作や発表機会を通じた交流など多様な芸術文化活動を行うことを目指し、2022年にスタート。2016年から開催している「ザワメキアート展」を継続して開催するとともに、作品の販売や著作権などに関する相談支援、芸術文化活動に関する研修などを行い、障害のある人やその支援をされる人を幅広くサポートしています。  
 支援センター設置後は、多分野のゲストキュレーターを迎えて、「ザワメキアート展」を開催しています。2025年度は小海町と中野市の2カ所で開催しました。関連イベントとして、「ミニ・キュレーターズ作品セレクション」の展示や「ザワメキプロジェクト」の取り組みの紹介などを行いました。



## ■ 南関東・甲信ブロック広域センター 実施団体

### 広域センター

#### 南関東・甲信障害者アートサポートセンター

各支援センターが協働し、相互フォローしながら「みんなで考える」体制をつくる。

障害者芸術文化活動普及支援事業で定められた南関東・甲信ブロックでは、2020年度まで東京都と埼玉県の2団体が広域センターを担い、首都圏の豊富な芸術文化資源やネットワークを活かした事業を実施しました。新たな支援センターの設置や、自治体の基本計画策定も進み、ブロック全体の支援力向上に寄与しました。2021年度からはみぬま福祉会が採択され、今後もさらにブロック内の各支援センターが力をつけていくために、当センターでは各支援センターが主体的に参加できる事業を実施しています。それぞれの知見や強みが発揮され、課題はお互いに補うことができる「みんなで考える」ネットワークづくりを目指しています。

### 埼玉県支援センター（基幹型）

#### 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集

障害のある人のアートの意義を県内に普及させ、魅力を伝え広げていく。

埼玉県では、2009年から福祉部障害者福祉推進課による「障害者アートフェスティバル」を実行委員会形式で毎年開催し、作品展やダンス公演、バリアフリーコンサートなどの事業が実施されています。行政が主体となり福祉、美術、教育などの機関が協働しながら、障害のある人たちのさまざまな表現を社会に発信してきました。またその一環で始まった「埼玉県障害者アート企画展」に加えて、「障害のある方の表現活動状況調査」もスタート。県内から集められた調査票から出展作品を選ぶという方法も生まれました。これらの事業にみぬま福祉会が継続的に携わってきた経緯を踏まえ、2016年には本助成を受け「埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集」を設立。官民の連携が強化されました。特色型センターのART(s)さいはくも加わるネットワークの醸成により、表現活動を始めの人や展覧会運営に携わる人、作品を楽しむ人たちが増えるなど、多様な形で広がっています。

### 実施団体

#### 社会福祉法人みぬま福祉会

働くことを権利とし、どんな障害があっても、受け入れる施設。

みぬま福祉会は、1984年に、重い障害を理由に学校卒業後の進路がない人たちのために「どんな障害がある人でも受け入れる」という理念を掲げて発足。「困難や例外的な状況にある人を切り捨てない」ことを大切にして、さまざまな困難を抱えた人を受け入れています。現在は埼玉県南部を中心に通所・入所相談支援事業など22の事業を展開、利用者は300人を超えています。

#### ● 工房集プロジェクト

障害のある人の「表現活動」を社会につなぎ、新しい価値を創造する。

労働は権利と考えて活動の軸にし、「仕事に人を合わせるのではなく、一人ひとりに合わせた仕事をする」ことを大切にしてきました。当初は利用者に関われる軽作業（ウエスづくりや缶プレスなど）を行っていましたが、その作業に合わない人がいたことをきっかけに、利用者一人ひとりの想いに寄り添ったことで始まったのが「表現活動」でした。

しだいにほかの利用者にも表現活動が広がったため、みぬま福祉会の表現プロジェクトを社会につなげる活動拠点として、2002年に工房集を開設。「利用する人だけの施設としてではなく、新しい社会・歴史的価値観をつくるためにいろんな人が集まっていこう、そんな外に開かれた場所にしていこう」という想いを込めて「集(しゅう)」と名付け、アトリエ、ギャラリー、ショップ、カフェを備えました。設立時から、アートディレクター、デザイナーなど多分野の専門家と協働して、プロジェクトを展開し、現在は法人全体で11のアトリエを中心に150名ほどが、さまざまな表現を生み出しています。



# Part 1

## COLLABORATION 連携企画

支援センターや自治体同士の学び合いや連携に向けて事業を実施しました。2025年度は山梨県で初めて運営協力も含めた交流企画を行いました。千葉県では2024年度の成果を継続する形でイベントを開催。舞台芸術分野の取り組みでは、新たに東海・北陸ブロックとの協働により埼玉県での事業に協力しました。



## 1. 山梨県の展覧会「雑踏展」への 運営協力と交流



展示造作の手法や工夫についても学んだ



自治体職員から活動状況や「雑踏展」での連携について聞く

2022年度から行っている見学・交流企画では、支援センターの事業を対象として、支援センターや自治体から希望者を募って見学しています。2025年度は支援センターからの提案もあり、運営への協力も含めて事業を見学する連携企画を行いました。山梨県支援センターの展覧会「甲府の街とアートを巡る『雑踏展』2025」（以下、雑踏展）には、長野県支援センターと埼玉県支援センターから参加がありました。「雑踏展」では、甲府市内の6カ所に作品が展示されており、運営スタッフとして来場者への対応などを行いました。終了後に交流会を行い、山梨県支援セ

ンターのスタッフから展覧会のプロセス、地域との連携などについて聞き、それぞれの支援センターの活動状況などの情報も共有しました。参加者からは、「他県の活動内容、YANさんの展示の工夫などさまざまな学びがあり、貴重な機会となった」「交流会でも情報交換でき、今後のモチベーションにつながった」といった感想がありました。当日は厚労省の担当者、広域センターも同行し、山梨県の自治体担当者や支援センターからヒアリングを行いました。

(2025年10月14日〈火〉、対面での開催、6名参加)

## 2. ギャラリーツアーとトークイベントを通じた ネットワークづくり



支援者だけでなく出展作家も作品について紹介



トークイベントでは参加者との意見交換も

千葉県立美術館で行われた、展覧会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱5」の関連イベントとして、支援センターのスタッフによるトークイベント「つくる・つたえる・つながるサミット vol.2」を開催しました。今回はトークイベントの前に展覧会を鑑賞しながら交流を深めるギャラリーツアーを行いました。ツアーでは、福祉施設や山梨県支援センターの担当者から作品の紹介も。現場の声を直接聞くことで、表現の手法や作家と支援者の関わり方など、文化芸術活動を通じた支援の実践について学び合う機会となりました。さらに、美術館と連携して同館の別会場で行わ

れていた、作品にさわれる展覧会「彫刻に触れるときー『さわる』と『みる』がであう彫刻展2026」の鑑賞ツアーも行い、多様な作品に触れました。トークイベントでは、3つの支援センターと千葉県の担当課である文化振興課がそれぞれの取り組みを紹介するとともに、福祉施設での表現活動を深めるために必要な「表現活動を通じたネットワークづくり」について語り合いました。

### 甲府の街とアートを巡る『雑踏展』2025

ギャラリーやショップなど複数の会場で、県内5名、県外5名の障害のある人による作品を展示。2024年度に続き2回目の開催。

日時：2025年10月11日（土）～20日（月）

会場：甲府市内各所／入場無料

主催：山梨県、YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター



### 「うみのもりの玉手箱5」関連イベント つくる・つたえる・つながるサミット vol.2

トークのテーマは「福祉施設での表現活動を深めるために必要なことは？～南関東・甲信エリアの障害者芸術文化活動支援センターの事例から考える～」。

日時：2026年2月1日（日）

会場：千葉県立美術館／参加無料

主催：千葉県、南関東・甲信障害者アートサポートセンター（社会福祉法人みぬま福祉会）

協力：千葉県障害者芸術文化活動支援センター うみのもり



▶詳しいレポートはこちら

[https://skk-support.com/project/summit\\_2/](https://skk-support.com/project/summit_2/)



# 3. 他地域の支援センターを訪れる、 交流企画

2025年度も希望者を対象に「交流企画」を実施。各支援センターや自治体に関わる事業に参加することで、担当者間の交流を促進し連携を深め、事業の手法について学びの場となることを目指しました。

第1回



2025年8月24日(日)

## アトリエばんげあの活動

社会福祉法人愛成会が主宰・運営し、絵を描いたりものづくりをしたり、自由に過ごせる活動の場「アトリエばんげあ」を見学。

会場：なかのZERO 西館3階(東京都中野区)

第2回



2025年8月28日(木)

## 「第16回埼玉県障害者アート企画展」に向けた本選考会

埼玉県障害者アートネットワークTAMAP士O(タマップ プラマイゼロ)に参加する専門家(アーティスト、教員、弁護士)、行政職員、福祉施設職員ら約50名で展覧会に向けて行った本選考を見学。

会場：埼玉県障害者交流センターホール(埼玉県さいたま市)

第3回



2025年10月27日(月)

## 川口太陽の家/ 工房集のアトリエ活動

会場：川口太陽の家、工房集(埼玉県川口市)

第4回



2025年11月4日(火)

## 「第2回かながわともいきアート展」

会場：横浜赤レンガ倉庫1号館2階スペース(神奈川県横浜市)

第6回

2026年2月26日(木)

## 音楽研修企画「How Does It Feel?」

→ p.13

会場：埼玉県障害者交流センターホール(埼玉県さいたま市)

第5回

2026年2月1日(日)

## 「つくる・つたえる・つながるサミット vol.2」 → p.11

会場：千葉県立美術館(千葉県千葉市)

## 番外編

東海・北陸ブロックとの連携による

# パフォーミングアーツ分野の 発表機会の創出



公演後の感想を話し合った



支援センターへの相談がきっかけでの出演も

東海・北陸ブロック広域センターが主催している全国公募の音楽イベントをきっかけに、関東でも音楽や舞台芸術分野の発表機会を求める声が増えています。2024年度には、埼玉県内の二つの支援センターが連携し、研修の一環として音楽の発表機会やトークイベントを実施しました。2025年度は、東海・北陸ブロック広域センターからの提案を受け、同ブロックと当広域センターが連携して、埼玉県支援センター主催のイベント「How Does It Feel?」をサポート。本イベントでは、発表・鑑賞機会の創出に加え、人材育成や団体間のネットワーク形成も目指しています。

## Comment

今日は、さまざまなジャンルの表現に触れることができました。このような機会は、発表の場だけでなく、交流の場として、そして鑑賞の場としても大切です。鑑賞者も含めて最後にみんなでセッションをしたり、出演者同士が交流できる時間を設けるなど、まだまだいろんな可能性があると思います。また、鑑賞する人が「自分たちもやってみたい」という入り口になることも大切です。今日のイベントを経て、そういった思いが生まれていたらうれしいです。

(長津結一郎/九州大学准教授)

## How Does It Feel?

福祉施設や個人が取り組む、歌・演奏・人形劇などの活動を、発表と鑑賞の形で共有しました。公演後には長津結一郎さん(九州大学准教授)をお招きして、主催者、出演者も含めたトークセッションを行いました。

日時：2026年2月26日(木) 13:00 開演

会場：埼玉県障害者交流センターホール

出演団体：エンジェル・ハーツ、太田将堂、カナザワカズマ、サヤカロックハン、調律人形(チューニングドールズ)、Demolitions (from YOJKO、Rockstar ★、SideWinDer)

主催：ART(s)さいほく(社会福祉法人昂)、アートセンター集(社会福祉法人みぬま福祉会)

共催：埼玉県、南関東・甲信障害者アートサポートセンター、東海・北陸ブロック障害者芸術文化活動広域支援センター

制作協力：HEAD MUSIC 合同会社



Column

# 展示会の出展や事業見学などの 交流が生まれました

ブロック内の支援センターの県域を越えた連携や交流を紹介します。

東京



神奈川

2025年9月、広域センターの呼びかけにより、神奈川県支援センターのワークショップに東京都支援センターと広域センターが見学に行きました。神奈川県では、福祉施設にアーティストが訪れ、ワークショップを行っています。身体表現のワークショップという点も事業の参考になりました。



撮影：金子愛帆

埼玉



山梨

2025年10月、山梨県支援センターが主催した展示会「甲府の街とアートを巡る『雑踏展』2025」(p.10)に、埼玉県のコバヤシカオルさんが出展しました。コバヤシさんは、2023年開催の合同企画展「カウンターポイント—それぞれの寄り添うかたち—」にも、埼玉県特色型支援センターの紹介により出展しています。



山梨



千葉

2026年1月、千葉県支援センターが運営した展示会「あらゆるひとの表現 うみのもりの玉手箱5」に、山梨県の作家2名が出展しました。2名とも山梨県支援センター主催の「甲府の街とアートを巡る『雑踏展』」への出展経験があり、千葉県支援センターから依頼を受けて、出展が実現しました。

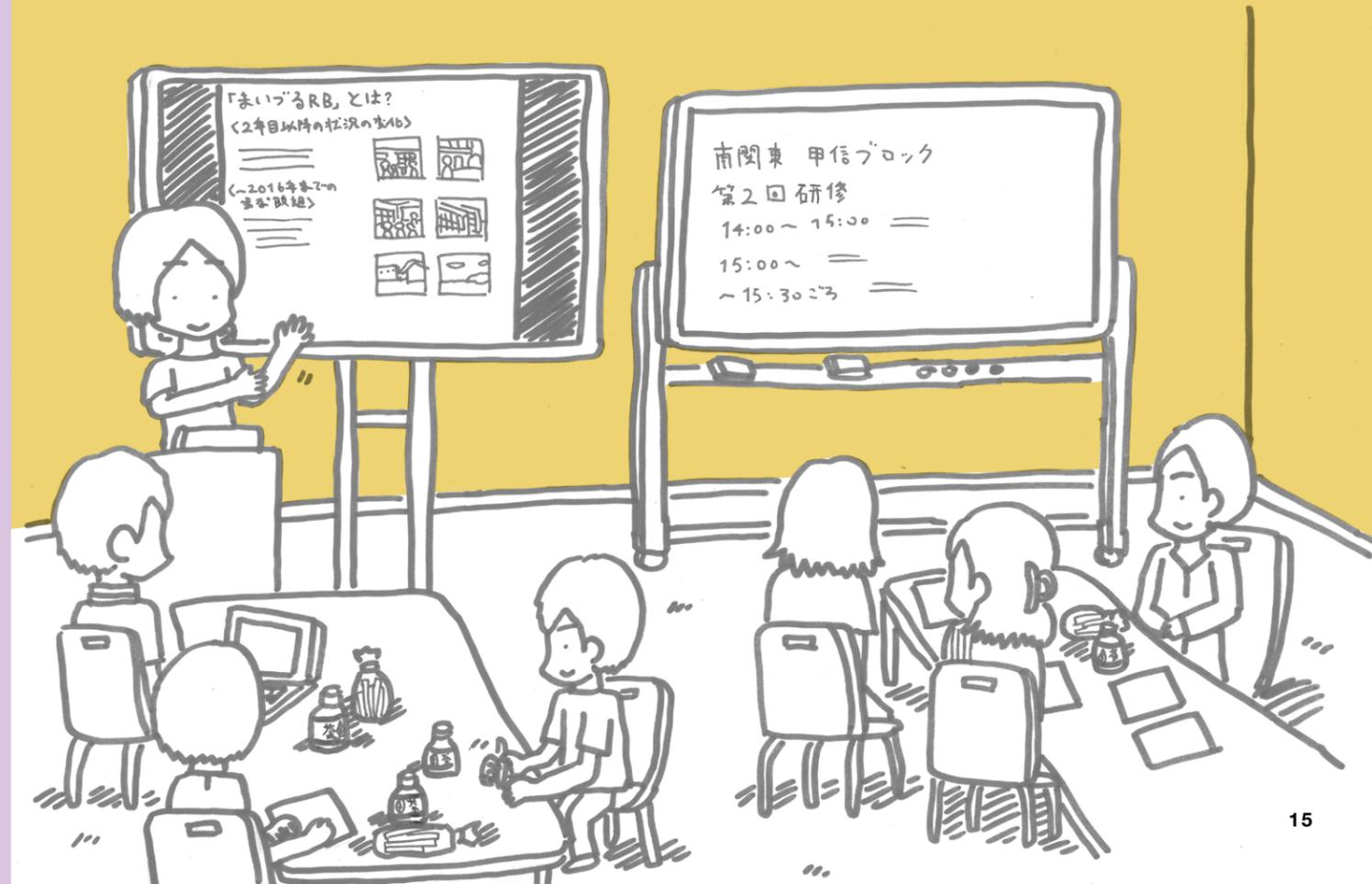


# Part 2

## TRAINING

# 研修

支援センターのスタッフが講師となり、舞台芸術分野をテーマにそれぞれの活動を学びました。また、自治体が主催する公募展を実際に見学し、担当者から活動についてうかがう実地研修も実施。さらに、障害のある人との場づくり、市民協働について専門家を講師に招いたレクチャーを行いました。



# 1. 支援センターの活動事例から舞台芸術分野について考える



撮影(下): たかはしじゅんいち

舞台芸術分野に注力している支援センターの活動から、舞台芸術分野の普及に向けて支援センターの役割や可能性を考える研修を行いました。埼玉県のアート(s)さいほくから、音楽分野の取り組み、東京都の東京アートサポートセンター Rights(ライツ)から、地域連携の視点も含めて事例を紹介してもらいました。事例紹介のあと、後半は二つのグループに分かれ、感想や質問、各々の取り組みなどを話しました。

(2025年7月24日(木)、オンラインにて開催、22名参加)

上: 2024年度に埼玉県で開催された音楽研修での一枚。職員と利用者でバンド活動を行っている県内4つの福祉施設によるライブ演奏を行った。開催後は、職員や利用者が活動の経緯や想いを語り合った  
下: 東京都江東区の文化施設との連携により開催した、身体表現ワークショップ(2024年)。イベントの開催だけでなく、今後の活動持続を見据えたサポートをどのように行ったか、具体的に紹介された

## 講師



### 石平裕一 (ART(s)さいほく)

社会福祉法人品で生活支援員として勤務。アート活動の拠点として開設した、まちこうば GROOVIN' のアトリエで創作活動支援や作品展やイベントの企画などを行う。障害の有無にかかわらず地域の方が気軽に楽しめる場づくりを目標にしている。



### 村上あすか (東京アートサポートセンター Rights(ライツ))

2020年、社会福祉法人愛成会に入職し、配属先の法人企画事業部にてアール・ブリュットをはじめとする芸術文化関連の公益事業を担当。2021年より東京都の障害者芸術文化活動支援センターの運営に携わる。2023年より東京アートサポートセンター Rights センター長。

▶詳しいレポートはこちら

[https://skk-support.com/project/training2025\\_1/](https://skk-support.com/project/training2025_1/)



# 2. 障害のある人と一緒につくる、一緒に楽しむ



合理的配慮について幅広い視点でとらえる研修として、俳優の大石将弘さんからお話をうかがいました。大石さんが取り組む、見える人にとっても見えない人にとってもさまざまな角度から出会うきっかけをつくる「きくたびプロジェクト」、また福祉施設で行った「演劇であたらしい表現を見つけるプロジェクト」について、プロセスやノウハウに加えてアーティストの視点を聞きました。研修のあと、参加者から感想や質問、各々の取り組みなどが紹介されました。

(2025年9月24日(水)、オンラインにて開催、14名参加)

上: 「きくたびプロジェクト」による「風景と空想から「聴く演劇」をつくるワークショップ」(2025年)は、有楽町の建て替え予定のビルと新宿御苑で実施。集まった参加者とともに街中を散策し、気になった風景から空想を広げて音声を創作した

下: 「演劇であたらしい表現を見つけるプロジェクト」(2024~2025年)。みぬま福祉会の「川口太陽の家」(埼玉県)で行った回では、ジェスチャーゲーム、リレー作文からの劇づくりなどを通して、一人ひとりの表現を発掘。活動を披露する場として、発表会「〇〇なお正月」を開催した

## 講師



### 大石将弘 (俳優)

奈良県出身。ままごと、ナイロン100℃に所属し多くの演劇作品に出演。また、劇場外で展開する演劇に多数関わるほか、ろう者と聴者が共同創作を行った『視覚言語がつくる演劇のことば』(KAAT)への参加、視覚障害者とともに場所の散策と対話から「聴く演劇」を創作する「きくたびプロジェクト」の立ち上げなど、さまざまな場所や人とともにつくる演劇と演技を探求している。

▶詳しいレポートはこちら

[https://skk-support.com/project/training2025\\_2/](https://skk-support.com/project/training2025_2/)



# 3. 自治体が主催する 公募展を見学する



東京都で行った対面での研修です。前半は東京都が主催する「第40回東京都障害者総合美術展」を鑑賞し、担当者から出展作家や公募展の歴史、運営方法を詳しくうかがいました。参加者からは「応募者の障害種別などとても幅広く、展覧会の活動背景や変遷、運営方法を知るよい機会となった」「40回も続き、主催者の熱意を感じた」といった感想も。後半は「市民協働」をテーマに、本事業を担当する厚生労働省の森真理子さんから、行政と民間との連携を学びました (p.19)。

(2025年8月22日(金)、対面にて開催、17名参加)

上:「東京都障害者総合美術展」を運営する団体の担当者から、はじめに展覧会の歴史が紹介され、続いて各作品の表現技法や魅力が解説された。長年出展している作家については、表現の変化も詳しくうかがうことができた

下:見学の参加者からは、公募から開催までの流れ、会場構成、運営体制、作家とのやりとりなどについて質問があり、担当者から回答を得た

## 第40回東京都障害者総合美術展

障害者の生活を豊かにし、自立と社会参加を促進するとともに、障害者に対する都民の理解や認識を深めることを目的としています。入選した絵画・造形・書・写真、約200点を一般公開しました。

日時: 2025年8月20日(水) ~ 24日(日)

会場: 西武渋谷店 A館7階催事場(東京都渋谷区) / 入場無料

主催: 東京都 / 主管: 公益財団法人日本チャリティ協会



# 4. 市民協働について 学ぶ



アートディレクションの経験が豊富で、厚生労働省で本事業の担当を務める森真理子さんを講師に迎えたレクチャーです。森さんが以前ディレクターを務めた京都府舞鶴市のプロジェクト「まいづるRB」の事例から、地域の多様な主体を巻き込むプロジェクトへと発展したプロセスを解説。また市民協働という考え方の背景、さらに本事業における協働のポイントなどが提示されました。行政との連携では分野横断的な視点と地域特性を把握すること、またリソースが限られる支援センターではすべてを担おうと気負うのではなく協力者をつなぐこと、さらに事業の優先順位と評価基準を明確にし持続可能な体制を築くことの重要性などが説かれました。

(2025年8月22日(金)、対面にて開催、17名参加)

上: 研修当日の様子。「市民協働」とは、行政と市民が対等に、協力して地域の課題解決やまちづくりに取り組むこと。高度経済成長期以降、市民協働という考え方がどのように生まれたかが紹介された

下: 「踊りに行くぜ!! in 舞鶴」(2009年)。ダンサーの森下真樹さんと音楽家の宮嶋哉行さんによるパフォーマンスの様子。倉庫そのものを舞台装置とした多彩な芸術作品を展開。作品づくりでは、アーティストとともに市内の各所をリサーチし、作品テーマや協働相手を模索した

### 講師



**森真理子**  
(厚生労働省障害者文化芸術計画推進官)

美術館や京都造形芸術大学舞台芸術研究センターなどの勤務を経て、2005年よりフリーランスで演劇、ダンス、音楽作品の企画制作を行う。2009年より京都府舞鶴市にて「まいづるRB」ディレクターを務め、自治体や福祉施設、特別支援学校、商店街などと連携したアートプロジェクトを展開(～2015年)。「六本木アートナイト2014」「さいたまトリエンナーレ2016」プログラム・ディレクター。2017年より日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS にて「True Colors Festival」プロデューサーを務め、2022年より現職。

▶詳しいレポートはこちら

[https://skk-support.com/project/training2025\\_3/](https://skk-support.com/project/training2025_3/)



## Column

## 広域センターがゆく！

広域センターのそのほかの活動を紹介します。展覧会やイベントの運営協力など、支援センターへのサポートを行いました。各支援センター主催の展覧会やイベントに訪れることで、その地域の状況把握にもつながります。

## 展覧会の設営協力

埼玉県特色型支援センターが主催した展覧会「アートセッションズinさいほく2025」（2025年9月18日～22日）への設営協力をしました。

## Reflections

## ふりかえり

広域センターとして毎年、一部の支援センターの展覧会の設営協力を行っています。東松山市総合会館で開催された同展覧会は、埼玉県北西部で活動する福祉施設や障害のある作家の展覧会です。絵画、立体造形、織りなど多様なジャンルの作品が展示されました。設営は支援センターや運営団体のスタッフを中心に行われており、広域センターからは2名が参加しました。展示には毎回工夫が多く、今回はベニヤ板を組み合わせた自立式の展示台や、ベニヤ板に段ボールシートを貼る手法など、参考になるアイデアが数多くありました。今回の設営作業などで得たスキルを、ほかの支援センターとも共有するなどして経験を活かしていきたいと考えています。今後もこうした連携を深めていきます。



## オンラインイベントの運営協力



東京都支援センター主催で、対面とオンライン配信のハイブリッド形式で実施されたトークイベント「アートでつながる人と人ー障害のある人の芸術活動を通してー」（2025年11月8日）への運営協力をしました。

## Reflections

## ふりかえり

「オンライン配信の方法を知りたい」という東京都支援センターの相談を受け、広域センターから2名が当日の運営に協力しました。今後自走することを視野に、まずはサポート役として関わりました。広域センターでは、オンライン配信の実施経験はあったものの、当センターのスタッフではなく、法人内の詳しい職員が担当していました。そのため今回は、その職員が当センターと東京都支援センターの双方に事前にレクチャーを行い、実施に至りました。事前の会場下見なども行い、当日は会場設営も含めて協力。イベントは、オンラインの参加者からも多くの質問や感想が寄せられ、活発なやりとりが行われました。ハイブリッド開催は来場が難しい人も参加できる有意義な形だと改めて感じました。

## Part 3

## MEETING

## 意見交換会

ブロック会議や研修で設けている意見交換会は、広域センター、支援センター、自治体の対話の場です。2025年度は、都県庁内での連携、事業予算、舞台芸術分野など、今後注力したいことや課題と感じていることなどをトピックとして取り上げました。



# 1. 注力する事業や事業運営の工夫について話し合いました！



毎年恒例となった各自治体職員からの発表。2025年度に注力する事業や予算確保など、事業運営の工夫を紹介しました。その後、自治体と支援センターがそれぞれのグループに分かれてディスカッションを行い、都県庁内の部署を超えた連携や事業予算の課題などについて意見を交わしました。

(2025年6月24日〈火〉、オンラインにて実施、23名参加)

## プレゼンテーション

### 神奈川県 施設のバリアフリーや情報保障の拡充、「ともいきアート展」の継続

「ともに生きる社会を目指して」の基本計画に基づき、障害者による文化芸術活動の推進に取り組んでいます。重点施策の一つとして、県立の博物館、美術館、図書館におけるバリアフリー設備の整備や音声・手話解説、電子書籍の提供など情報保障を進めています。また、支援センターの事業を通じて、相談支援やワークショップを実施し、地域で障害のある人が文化芸術に触れる機会を広げています。さらに「ともいきアートサポート事業」として、

障害者の創作活動の支援や作品発表の機会創出を推進。2024年度からは赤レンガ倉庫で公募展「ともいきアート展」を開催し、入賞作品は作品集として一般販売しています。加えて、メタバースを活用した展示「ともいきアート」ワールドも実施するなど、発表の場の多様化にも力を入れています。

(笠松由莉亜、神奈川県福祉子どもみらい局福祉課)

### 山梨県 「雑踏展」での発表機会の拡大と、予算確保の課題

障害者の文化芸術活動の推進計画を「やまなし障害児・障害者プラン」の一部として位置づけ、2021年度から3カ年の計画を実施しています。2025年度は第2期計画の2年目に当たり、計画は「楽しむ」「支える」「深める」の3つの視点で施策を展開しています。特に「支える」に重点を置き、支援センターが中心となって、国の11の基本的施策と連動した取り組みを進めています。なかでも芸

術上価値が高い作品等の評価)に注力し、2024年度から「雑踏展」を開催。県内外の優れた作品を紹介し、障害のあるアーティストの発表の機会を拡大しています。この取り組みにより支援センターの予算も増加し、厚生労働省と文化庁の補助金を活用して継続しています。今後は、安定した予算確保が課題となっています。

(笠井洋祐、山梨県福祉保健部障害福祉課)

### 長野県 アーティストの特別支援学校訪問による人材育成に重点

2025年度予算では、新たに「支援センターの機能強化」分を計上し、予算を増額しています。県予算の確保が難しい状況でしたが、県独自の「こどもの未来支援基金」を活用し、2025年度の新規事業として「ザワメきっずプロジェクト」を企画したことにより、機能強化分の予算化を実現できました。「ザワメきっずプロジェクト」は、アーティストが特別支援学校を訪問し、児童・生徒の創作活動を支援する取り組みであり、2025年度はこのプロ

ジェクトを重点施策として人材育成に注力しています。また、関係者の連携協力にも力を入れており、支援センター、信州アーツカウンシル、県の障がい者支援課、文化振興課の4者で毎月定例会を実施し、情報共有や意見交換を行っているほか、芸術文化活動に取り組む事業所との意見交換にも努めており、支援ネットワークの構築を図っていきたく考えています。

(木下英利香、長野県健康福祉部障がい者支援課)

### 東京都 文化芸術活動を通じた障害者の社会参加を推進

都は、共生社会の実現に向けた取り組みとして障害者の文化芸術活動への参加を推進しています。「東京都障害者総合美術展」では、絵画・造形・書・写真の作品703点の応募があり、うち200点の作品が展示されました。「障害者のためのふれあいコンサート」は、東京都交響楽団の協力のもと、本格的なホールで素晴らしい演奏を楽しみました。年2回開催される「つながる音楽会」では、公募により選ばれた障害のある8組が楽器演奏や合

唱を披露しました。「東京アートサポートセンター Rights(ライツ)」は、障害者の芸術文化活動のさらなる振興と、芸術文化活動を通じた障害者の自立と社会参加を促進しています。引き続き、文化芸術を楽しむこと、創造すること、発表することなどの多様な活動の選択肢及び参加機会の確保などにより、障害者の個性や能力の発揮及び社会参加の促進を推進していきます。

(石井恵美、東京都福祉局障害者施策推進部企画課)

### 埼玉県 美術や音楽分野での多角的な鑑賞支援の推進と、発表機会の拡大

まず鑑賞支援では、視覚障害のある人となない人が一つのグループで作品を鑑賞し交流を図る取り組みや、聴覚障害のある人を対象とした字幕や手話通訳付きのイベントが行われています。また、刺激に敏感な人に向けたカムダウンスペースの設置や補助機器の導入も進めています。さらに、「彩の国バリアフリーコンサート」を毎年開催し、手話通訳や補聴支援機器を活用した音楽鑑賞の場を提供しています。交流の面では、小・中学校の教員研修に障害のある人が参加し、作品発表の機会を設けたり、イベントで

障害のある人によるアートデモンストレーション(制作の実演)や障害のある人が講師となるワークショップなどの取り組みを行っています。情報収集としては、埼玉県が毎年調査を行い、収集した600以上の作家情報をもとに選考し展示会に活かしています。予算面では他県の事例を参考にしつつ、増額を目指している状況です。

(村上秀、埼玉県福祉部障害福祉推進課)

### 千葉県 「うみのもりの玉手箱」を起点とした発表支援とネットワーク形成

厚生労働省の2種類の補助金を併用して事業を展開し、一部は「全国障害者芸術・文化祭」のサテライト開催事業として実施しています。2025年度からは、3年間の複数年事業として支援センターを運営しています。創作活動は長期間の支援が必要である一方、単年度契約では継続的な対応やノウハウの蓄積、関連団体とのネットワーク構築が難しく、成果や課題を次年度に活かすことが困難でした。事業の重点は、文化芸術活動を通じたさまざまな関係者との交流の促進と作品発表の機会創出です。県内大学な

どでの人材育成講座やバリアフリー演劇観覧会の開催などにより多様な分野との協働を図っています。また、県立美術館での展覧会「うみのもりの玉手箱」は障害のある人の作品発表の場となり、受賞作品は公共施設やコンビニエンスストアで巡回展示され、障害のある人の文化芸術の裾野拡大とネットワーク形成に寄与しています。

(和田宗矩、千葉県環境生活部スポーツ・文化局文化振興課)

## Comment

### 中村亮子 広域センタースタッフ



今年度もすべての自治体の出席により、開催することができました。今回は、これまでよりも少し踏み込み、事業予算に関する内容も含めて自治体での事業運営の工夫をうかがうことができました。事業を継続することでの成果や、新たな課題なども共有でき、各自治体の考え方や担当者としての想いを知る貴重な場となっています。

グループディスカッション

障害福祉課と共生推進本部室でアート事業を分担。支援センター主催の会議に文科系や共生推進の担当者をオブザーバーとして招き、連携の機会を設けています。

(笠松由莉亜、神奈川県自治体)



文化振興課や支援センター、信州アーツカウンシルと4者で毎月打ち合わせを実施しています。事業内容に関する意見交換に加え、補助金の活用などの情報共有も行っています。

(木下英利香、長野県自治体)



discussion

庁内のほかの部署とはどのように連携していますか？

埼玉県障害者アートフェスティバル実行委員会には文化および教育局の担当者も入り、意見交換しています。また、生涯学習分野と連携し、「埼玉県美術展覧会（県展）」に合わせた関連企画として障害のある人の作品展も行っています。

(村上秀、埼玉県自治体)



農福連携を所管している部署と連携し、行事のポスターにうみのもりの玉手箱の受賞作品を使用させていただきました。また、スポーツの所管部署とも連携し、バラスポーツのイベントで作品のレプリカを展示しました。

(和田宗矩、千葉県自治体)



福祉課から文化振興課へ担当が変わり、美術館での事業が広がったため、予算が少しずつ増えています。なるべく県費を使わず、国の補助金を活用する工夫をしてきてその努力を感じています。

(こまちだまお、千葉県支援センター)



東京都は担当者が頻繁に代わるため、事業の全体像が伝わりにくのが現状です。文化施設や地域連携の事業は進めていますが、それをどう予算に反映させるかが課題です。

(村上あすか、東京都支援センター)



discussion

事業予算などの課題はありますか？

次世代にノウハウを引き継ごうと思っても、新しい人を雇う余裕がなく、事業の属人性を課題に感じています。

(瀧澤聡、山梨県支援センター)



「文化施設との連携」という視点は、福祉だけに頼らない広がりを感じます。これまで福祉課にしか話をしていなかった自分たちの視野の狭さにも気づきました。

(石平裕一、埼玉県支援センター〈特色型〉)



2. 舞台芸術分野について意見を交わしました！

第1回の研修(p.16)では、レクチャーのあとにグループディスカッションを行い、舞台芸術分野についてどのような相談が寄せられているか、取り組み事例や課題などを話し合いました。

(2025年7月24日〈木〉オンラインにて実施、22名参加)



美術分野中心の展覧会に音楽についての問い合わせがあり、この分野にどう取り組むかを考えています。県内でも障害のある人による音楽の発表機会はありますが、関わりがまだない状況です。

(江崎亮、千葉県支援センター)



支援センターの事業以外にも、舞台発表イベントなどの取り組みを実施していますが、いずれも単年度事業であるため、同様の内容が繰り返し開催される傾向があります。より長期的な視点を持ちながら、関係者を巻き込みつつ段階的に引き継ぎ、持続可能な体制を構築していくことが大切だと感じました。

(笠井洋祐、山梨県自治体)



discussion

舞台芸術分野の相談や取り組みについて教えてください。

ニーズに対してどこまで対応すべきか難しいですが、関わっていただける人たちを見つけることで解決する場合もあると思います。

(村上あすか、東京都支援センター)



相談については美術分野に関することが多いですが、舞台芸術分野の発表機会を求める声もあります。一方で、障害のある人が舞台に立つにあたってのバリアフリーはまだ不十分だという声も聞かれます。文化施設とともに考えていきたいと思います。

(川村美紗、神奈川県支援センター)



支援センターが全部引き受けることは難しいですね。いかに協力先を見つけるかが重要だと思います。地域の文化施設の担当者たちと集まり、悩みを聞いたりしながらつながりを広げています。

(田中真実、神奈川県支援センター)



こちらが発表してほしいと思っても、本人が望んでいるのかどうか迷いがあります。ファシリテーターなどの存在が大事で、長野でもそうした役割の人たちを増やすことが重要だと思います。

(小川泰生、長野県支援センター)

Comment

藤原顕太 広域センター事業アドバイザー



舞台芸術分野と一口にいっても、音楽、ダンス、演劇などジャンルだけでもいろいろあり、また相談内容も、参加できる活動や発表の機会を探すものから、アクセシビリティに関するものまで多彩なため、一人の専門家だけで解決できる相談ばかりではないと思います。支援センターのなかだけで解決が難しい内容の場合、アーツカウンシルなどの芸術文化機関やほかの相談窓口と情報交換、相談をしながら対応していくことが有効かと思われま

## Column

## 広域センターがゆく II

広域センターとしての独自の活動を紹介するコラム。  
広報や見学企画にも力を入れています。

## パンフレット、SNS、ウェブによる広報



2024年度に作成した各支援センターを1冊で紹介するパンフレットを一部改訂して増刷(左)。また、広域センターのウェブサイトや埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇のInstagramで各支援センターの情報を配信しています。



## Reflections

## ふりかえり

パンフレットに関し、支援センターや自治体担当者に、活用状況や感想を聞きました。すると、イベントなどでの配布が中心ということ、また配布しやすい仕様であること、さらに支援センターの活動内容だけでなく想いが伝わるといった感想もありました。そのため、引き続きパンフレットを活用できるよう、一部改訂して増刷しました。パンフレットの内容は、Instagramやウェブサイトの記事として公開しています。また、埼玉県障害者アートネットワークTAMAP±〇のInstagramでは、各支援センターの情報に加えて、それぞれが主催する展覧会やイベント情報も公開しています。

## 自治体主催の展覧会を見学

2025年11月、第3回ブロック会議に合わせて、神奈川県主催の展覧会「第2回かながわともいきアート展～生きること、表現すること～」(2025年11月1日～9日)の見学を企画。東京都主催の展覧会の見学も実施しました(p.18)。



## Reflections

## ふりかえり

同展は「ともいきアートサポート事業」の一環として、2024年よりスタートした障害のある人の公募作品展。約140点の作品と県内の障害福祉サービス事業所の招へい作品が展示されました。この展覧会の担当課は、本事業の担当とは異なりますが、自治体主催の事業から学びを深めるため見学を企画しました。ブロック内に呼びかけ、7つの支援センターと2つの自治体から参加があり、自治体同士でも地域性や活動状況、事業の手法について学ぶ機会となりました。

## Part 4

## EVALUATION

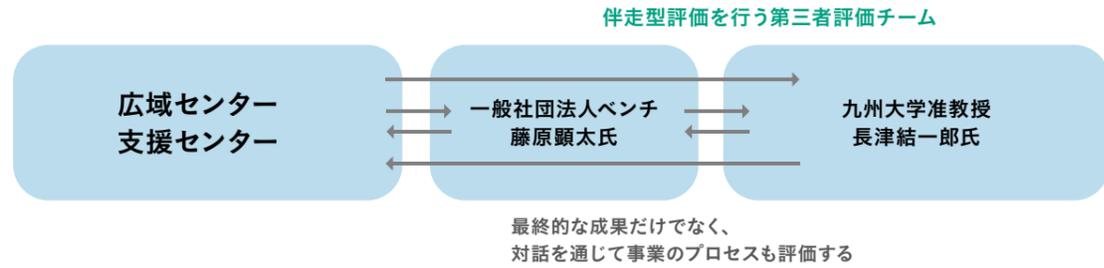
## 事業評価

2025年度、ロジックモデルを活用した事業評価は5年目を迎えました。2021年度から継続して、長津結一郎さんと藤原顕太さんの伴走のもと、アンケート結果から事業成果の可視化を図っています。よりよい事業づくりを目指し、毎年アウトカムの項目を更新しながら、ていねいに運営の質を磨いています。



# 評価体制

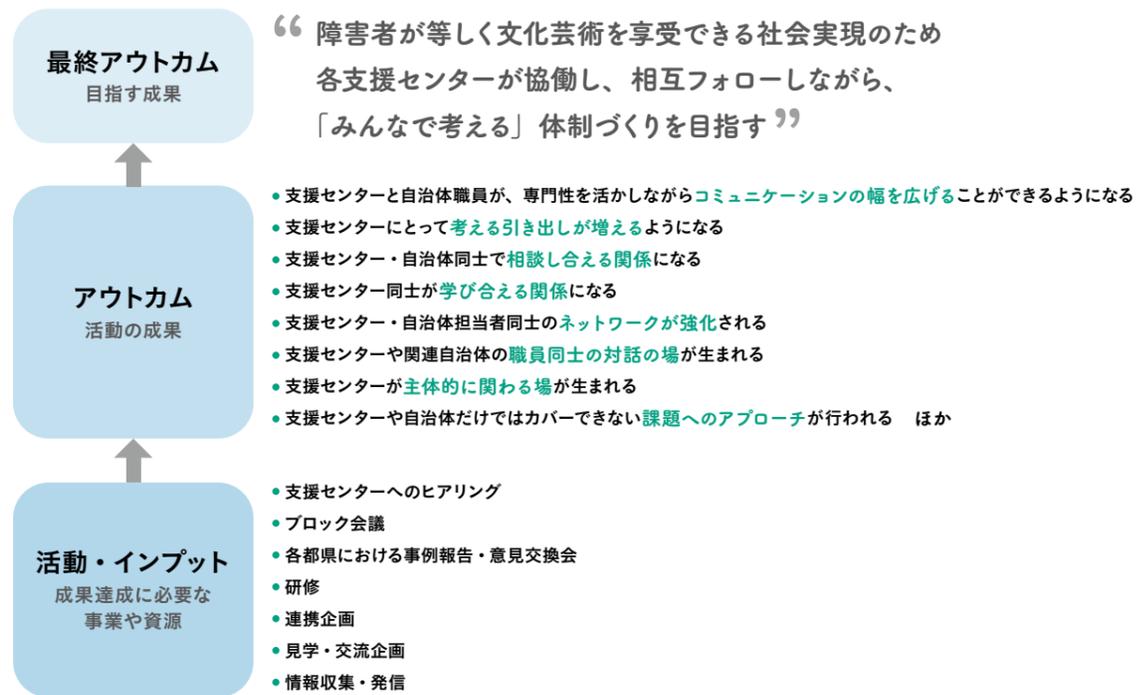
当センターがスタートした2021年度から、事業の指標とプロセスが適正であったかを客観的に振り返るため、第三者による評価チームを設置しています。評価の方法としては「伴走型の評価体制」を採用。事業の最終報告だけを評価するのではなく、当センターに計画段階から振り返りまでを伴走する形で事業のプロセスを把握し、対話しながら評価を進める体制として長津結一郎さん（九州大学准教授）と藤原顕太さん（一般社団法人ベンチ）にご協力いただきました。



# 評価方法

## ——ロジックモデルを活用した目標設定と事業計画

今年度も目指したいことを整理し、それに基づいて評価尺度（下図）を活用。広域センターとしての「最終アウトカム（目指す成果）」は、2021年度から同じものを採用し、それに伴う「アウトカム（活動の成果）」と「活動・インプット（成果達成に必要な事業や資源）」を設定しています。年度後半には、支援センター向け・自治体向け・広域センター向けにそれぞれ作成したアンケート調査を行い、ロジックモデルと照らし合わせました。



# ロジックモデルの目標と達成度

表の見方

- 年度当初に作成した「目標」に対し、アンケートをもとに集計しています。
- アンケートの設問が5段階のものは5.0を最高値にし、平均値を算出。チェックリストで回答したものについては、項目中の選択数に応じて算出。

■ 目標を達成

アウトカム	目標	達成目標	支援センター (n=8)	自治体 (n=7)	広域センター (n=1)	評価尺度
最終アウトカム	各支援センターが協働し、相互フォローしながら、「みんなで考える」体制づくりを目指す	4.0	3.93	3.86		5段階
		4.5	5.00	4.43		
中間アウトカム	支援センターにとって考える引き出しが増えるようになる	4.5	4.71			5段階
	支援センター同士で相談し合える関係になる	4.5	4.86			
	支援センターや自治体が前年よりも活動の幅が広がる	4.0	4.14	4.29		
	支援センターの認知度が向上しているという実感が生まれる	4.0	3.86	4.00		
	支援センターと自治体がお互いに専門性を活かしながらコミュニケーションの幅を広げることができるようになる	4.5	4.43	4.14		
	自治体同士で相談し合える関係になる	4.0		4.00		
初期アウトカム2	支援センターにおける課題解決や支援のスキルが向上する	4.0	3.79			チェックがついた項目の数に依じた配点
	支援センターの支援の質が上がる	4.0	3.57			
	支援センター同士が学び合える関係になる	4.0	3.36			
	支援センター・自治体担当者同士のネットワークが強化される	4.5	4.43	2.86		
	支援センターのステークホルダーとのコミュニケーションが円滑になる	4.0	1.79	2.14		
	自治体のなかで本事業に関する理解が向上した実感がある	4.0		2.86		
初期アウトカム1	ネットワークを通じて自分の自治体の事業のあり方を考えるきっかけができる	4.0		4.14		5段階
	情報や制度だけでなく、支援センターの想いが伝わるパンフレットが完成・配布される	4.0			4.0	
	ほかの支援センターの事業を体験することができる	4.0			4.0	
	支援センター職員の支援力向上につながる知識を得る場が生まれる	4.0			4.0	
	支援センターが主体的に関わる場が生まれる	5.0			3.0	
	支援センターや関連自治体の職員同士の対話の場が生まれる	4.0			5.0	
	支援センターや自治体だけではカバーできない課題へのアプローチが行われる	4.0			4.0	
	自治体が広域センターに相談しやすくなる	4.0			3.0	
自治体ならではの悩みが共有される場が生まれる	4.0			3.0		

※アウトカム……活動を行うことにより達成が目指される成果

※2024年度の達成状況により、項目によっては達成目標値を調整した

## 評価チームによるコメント



### 長津結一郎

ながつ・ゆういちろう

多様な関係性が生まれる芸術の場に伴走／伴奏する研究者。専門はアーツ・マネジメント、文化政策。障害のある人など多様な背景を持つ人々の表現活動に着目した研究を行っているほか、音楽実技やワークショップに関する教育、演劇・ダンス分野のマネジメントやプロデュースにも関わる。現在、九州大学大学院芸術工学研究院准教授。2013年東京藝術大学大学院博士後期課程修了、博士（学術・東京藝術大学）。著書に『舞台の上の障害者：境界から生まれる表現』（単著、九州大学出版会、2018年）、『アートマネジメントと社会包摂』（共編著、水曜社、2021年）など。日本文化政策学会理事、文化経済学会（日本）理事、日本アートマネジメント学会運営委員。

毎年度当初に広域センターと協議のうえ事業目標を設定し、年度末にその達成状況を点検する評価サイクルを導入して、5年目となる。2025年度は、これまでの事業評価の結果を踏まえつつ、事業推進の過程で得られた知見をもとに、自治体に対する広域センターとしての支援のあり方を再検討するなど、新たな事業展開を行った。

アンケート結果には、これまでとは異なる傾向が見られた。「最終アウトカム」および「中間アウトカム」として設定している項目の評点は総じて高かった一方で、「初期アウトカム」に位置づけた項目の評点は全体的に伸び悩んだ。「みんなで考える」体制づくりについては、多くの支援センターや自治体から高い評価を得ており、これまでの広域支援の取り組みが一定程度盤石に機能していることがうかがえる。しかし、その成果を支えている要因は、必ずしも初期アウトカムとして想定していた項目と一致していないことが明らかになった。とりわけ、自治体間のネットワーク強

化や、各自治体内部における本事業への理解促進については、課題がなお残っている。また、前年度に引き続き実施した広報パンフレットの制作は一定の効果をもたらしたものの、課題の根本的な解決には、別のアプローチが求められることも示唆された。

今後は、長年の運営を通じて形成されてきた「みんなで考える」体制が、どのような契機や条件によって実現してきたのかを丁寧に分析し、これまでの枠組みとは異なるアウトカムの可能性も含めて再定義・言語化していく必要がある。従来の評価手法を踏襲するだけでなく、必要に応じて変革をいとわない試行にも取り組みながら、広域センターとしての機能をさらに拡充していくための基盤を整えていきたい。



### 藤原顕太

ふじわら・けんた

舞台芸術制作者、社会福祉士。日本社会事業大学卒業後に舞台芸術界に入り、舞台芸術制作者に向けた中間支援の仕事に就く。2017年より福祉と芸術に関わる仕事を始め、障害のある人の芸術活動支援に携わる。2021年、アートマネージャーによるコレクティブ「一般社団法人ベンチ」を設立し、理事に就任。埼玉県東松山市の高齢者福祉施設にアーティストが滞在するプロジェクト「クロスブレイ東松山」や、アクセシビリティ・コーディネートなどの事業を行っている。NPO法人 Explat 副理事長。

撮影：加藤甫

本ブロックではこれまで支援センター同士のネットワークが丁寧に行われ、相談し合える関係が構築されてきた。特に、センター同士が直接顔を合わせて交流する機会は、互いの意欲向上にも寄与している。

これを踏まえ、今年度の広域センターでは、次の段階として「自治体と支援センターのよりよい連携」を目標に設定した。支援センターが都県ごとに特色ある活動を展開しているのと同様に、支援センターと自治体の関係性も地域ごとに異なる。こうした実情を踏まえ、「ネットワークづくり」と「個別支援」の両面からアプローチがなされた。

定期的に異動がある自治体職員は、支援センタースタッフと比べて知見を蓄積する機会が限られている。そのため、会議や研修の場では意見交換の時間を設けるとともに、オンラインだけでなく対面で学び合う機会も確保された。他都県の取組事例や考え方を知る場として、自治体職員からも有意義であるとの評価を得ている。

さらに広域センターは、各地域の自治体や支援センターと個別に相談する機会を増やし、双方が課題と感じている点について客観的な助言を行った。また一部都県では、各都県との連携事業を企画・実施することでの伴走支援も進めた。このような支援を活用できた自治体・支援センターにとっては得るものが大きかったのではないだろうか。

今後の課題も挙げておきたい。各支援センターは広範な目的に対し、限られた資金・人的資源で運営がされている。そのため優先順位や達成目標の設定、さらにはその評価において、自治体と支援センターが認識を共有することが欠かせない。こうした部分で広域センターが果たせる役割は大きいだろう。また自治体への支援では、障害者文化芸術活動の政策に関する専門的知見を基盤に、広域センターが相談対応できる幅をさらに広げていくことが求められる。加えて、支援センターの認知度向上や活動の普及についても、より支援していく必要があるだろう。

## おわりに

当ブロックの支援センターは、今年度も新しい分野への取り組みや、鑑賞・発表機会の充実により、各地でさらに事業が拡大しました。

昨年度の事業評価では、支援センターと自治体で評価が分かれる結果となりました。自治体の担当者の異動などもあり、特に、自治体の担当者同士のネットワークやステークホルダーとのコミュニケーションについては課題が残りました。その点も踏まえて、今年度は、毎年実施している自治体による事例報告・意見交換会に加えて、対面での会議や研修の充実を図りました。これまでも支援センター主催による展覧会の見学は行っていましたが、新たに自治体主催による展覧会の見学も実施し、研修においても自治体、支援センターそれぞれが事業について学びを深めることができるよう企画しました。

また、昨年度実施した千葉県でのトークイベントに、ギャラリートツアーを加えて継続することで千葉県内の施設同士のネットワークに向けた種まきを続けています。支援センターの提案により実現した連携企画も、運営の手法を学ぶ機会となりました。これらの事業から、ブロック内の地域を超えた連携の可能性を感じています。

当センターでは、「みんなで考える」ことのできるネットワークを目指しています。今年度も支援センターや自治体の担当者や築いた信頼関係と、各々の主体的な関わりがよりよい事業につながりました。単年度での地道な事業ですが、今後も事業評価を軸に、ブロック内の課題やニーズに向き合い、連携を深めながら事業に取り組みたいと思います。最後になりましたが本事業の実施にあたり、ご協力いただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

## Each Center

### 南関東・甲信ブロック 支援センター一覧

#### 埼玉県・基幹型

#### 埼玉県障害者芸術文化活動支援センター アートセンター集

実施団体 社会福祉法人みぬま福祉会 所在地 〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂1445 工房集内  
TEL 048-290-7355 FAX 048-290-7356 E-mail artcenter@kobo-syu.com  
URL https://artcenter-syu.com/



#### 埼玉県・特色型

#### ART(s)さいほく

実施団体 社会福祉法人昂 所在地 〒355-0077 埼玉県東松山市上唐子1532-5 まちこうばGROOVIN' 内  
TEL FAX 0493-81-4597 E-mail arts\_saihoku@subaru-swc.com  
URL https://www.subaru-swc.com/~groovin/



#### 千葉県

#### 千葉県障害者芸術文化活動支援センター うみのもり

実施団体 株式会社いろだま 所在地 〒299-4301 千葉県長生郡一宮町一宮2553-8  
TEL FAX 0475-36-7411 E-mail info@uminomori.net  
URL https://uminomori.net/



#### 東京都

#### 東京アートサポートセンターRights (ライツ)

実施団体 社会福祉法人愛成会 所在地 〒164-0001 東京都中野区中野5-26-18  
TEL 03-5942-7251 FAX 03-5942-7252 E-mail rights@aisei.or.jp  
URL https://rights-tokyo.com/



#### 神奈川県

#### 神奈川県障害者芸術文化活動支援センター

実施団体 認定NPO法人S T スポット横浜 所在地 〒220-0004 神奈川県横浜市西区北幸1-11-15 横浜STビル地下1階  
TEL 045-325-0410 FAX 045-325-0414 E-mail info@k-welfare.org  
URL https://k-welfare.org/



#### 山梨県

#### YAN 山梨アール・ブリュットネットワークセンター

実施団体 社会福祉法人ハヶ岳名水会 所在地 〒408-0025 山梨県北杜市長坂町長坂下条1237-3  
TEL 0551-45-7027 FAX 0551-45-8221 E-mail yan@y-meisui.or.jp  
URL http://y-meisui.or.jp/yan/



#### 長野県

#### ザワメキサポートセンター (長野県障がい者芸術文化活動支援センター)

実施団体 社会福祉法人長野県社会福祉事業団 所在地 〒381-0034 長野県長野市大字高田364-1 (長野県社会福祉事業団 本部事務局内)  
TEL 026-217-0022 FAX 026-228-0310 E-mail art@nagano-swc.com  
URL https://nagano-swc.com/services/zawameki/



表紙絵＝月内祐樹 (NPO 法人ぼけっと)

扉絵・似顔絵＝関 翔平 (工房集)

# ART SUPPORT CENTER

南関東・甲信

障害者アートサポートセンター

2025 年度事業報告書



2026 年 3 月 31 日発行

企画・発行 社会福祉法人みぬま福祉会  
南関東・甲信障害者アートサポートセンター  
〒333-0831 埼玉県川口市木曾呂 1445 (工房集内)  
Tel: 048-290-7355 / E-mail: artcenter@kobo-syu.com

編集 工房集  
制作 佐藤恵美  
執筆協力 彌田円賀 (p.19)  
デザイン 宮外麻周 [m-nina]  
センターロゴデザイン PORT  
撮影 大木文彦、鈴木広一郎、長崎剛志、長谷川朗、工房集

助成 令和 7 年度障害者芸術文化活動普及支援事業 (厚生労働省)

© 社会福祉法人みぬま福祉会  
無断転載・複写を禁じます。

南関東・甲信障害者アートサポートセンター  
<https://skk-support.com>

南関東・甲信  
障害者アート  
サポートセンター



社会福祉法人  
みぬま福祉会



